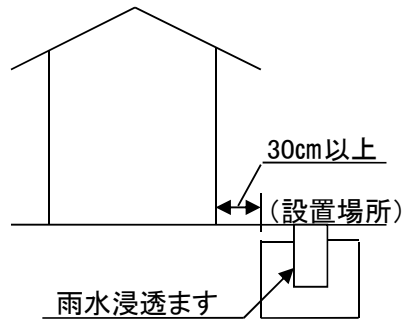


雨水浸透枡の設計・施工資料

1. 構造物との離隔図
2. 宅地における設置例
3. 雨水浸透枡の口径について
4. 施工方法及び手順

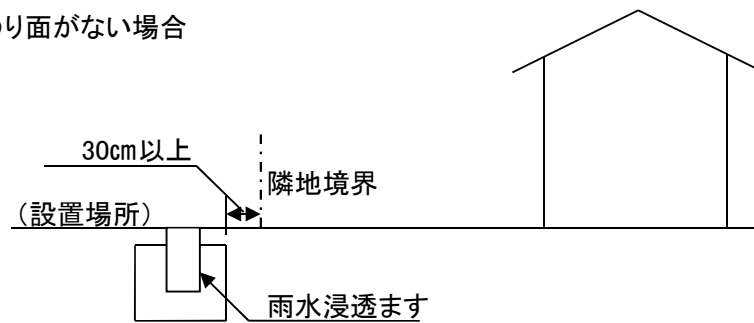
1. 構造物との離隔図

(1) 建物基礎との離隔

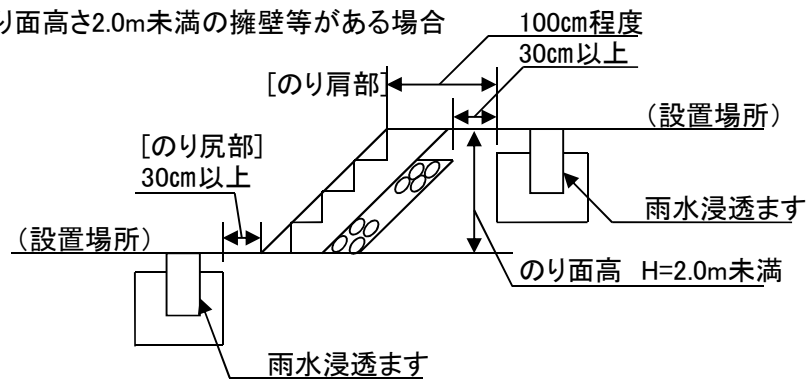


(2) 隣接境界及び擁壁等との離隔

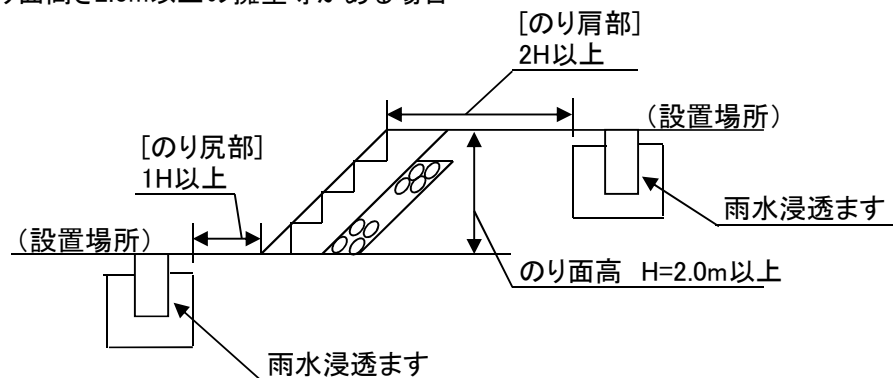
ア のり面がない場合



イ のり面高さ2.0m未満の擁壁等がある場合

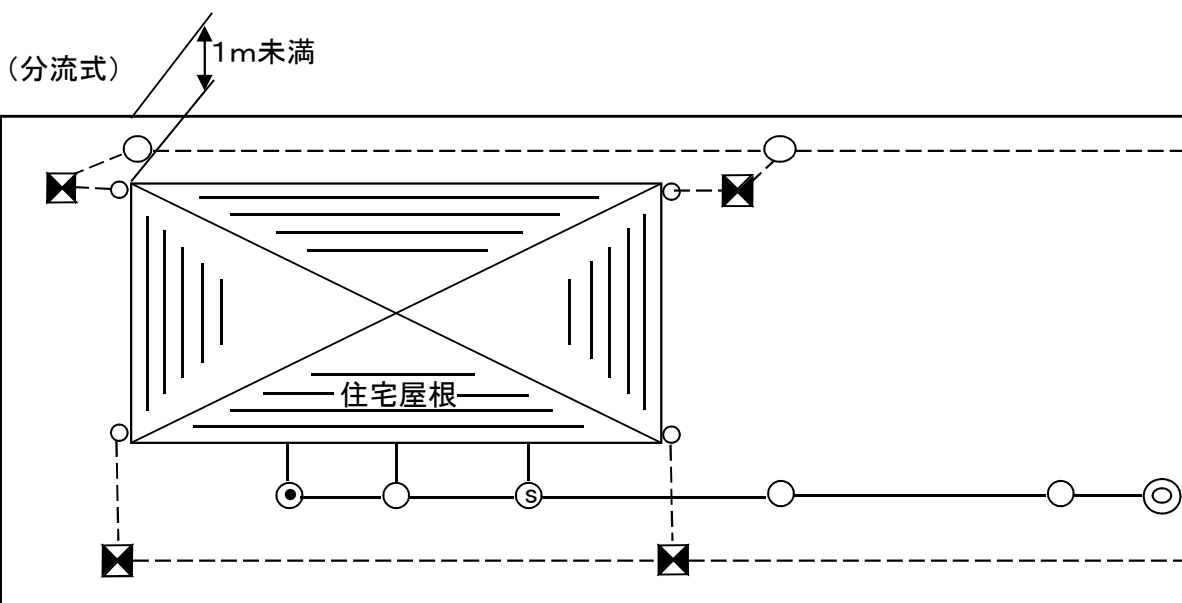
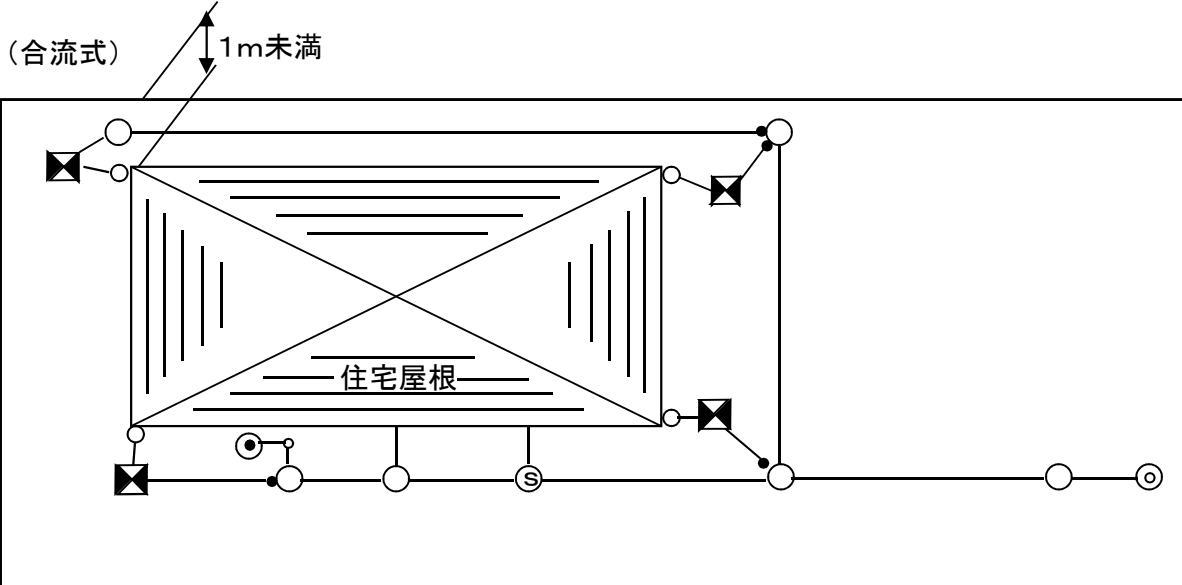


ウ のり面高さ2.0m以上の擁壁等がある場合



2. 宅地における設置例

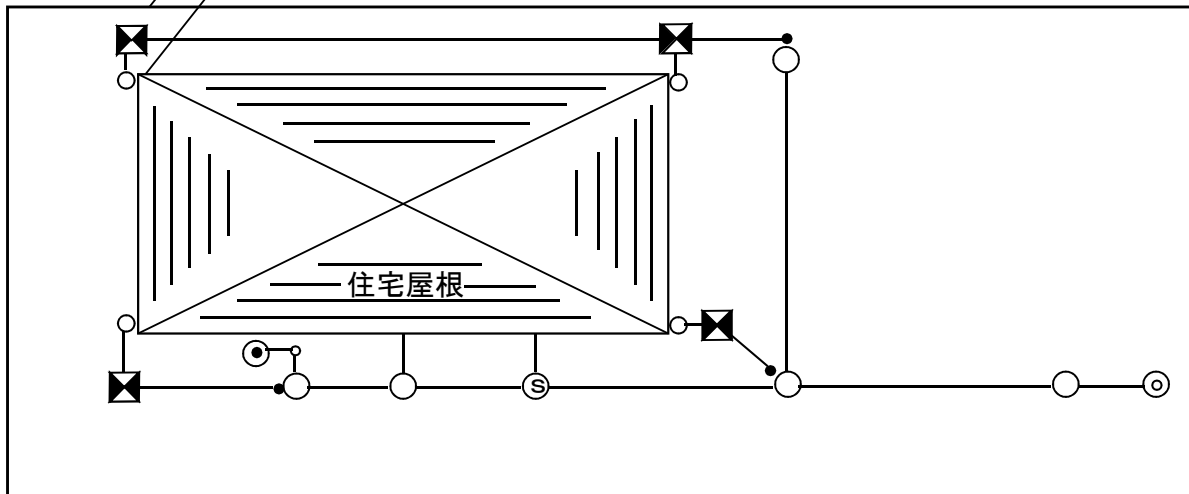
(1) 浸透ます設置例 (家屋と隣地境界距離 < 1m の場合)



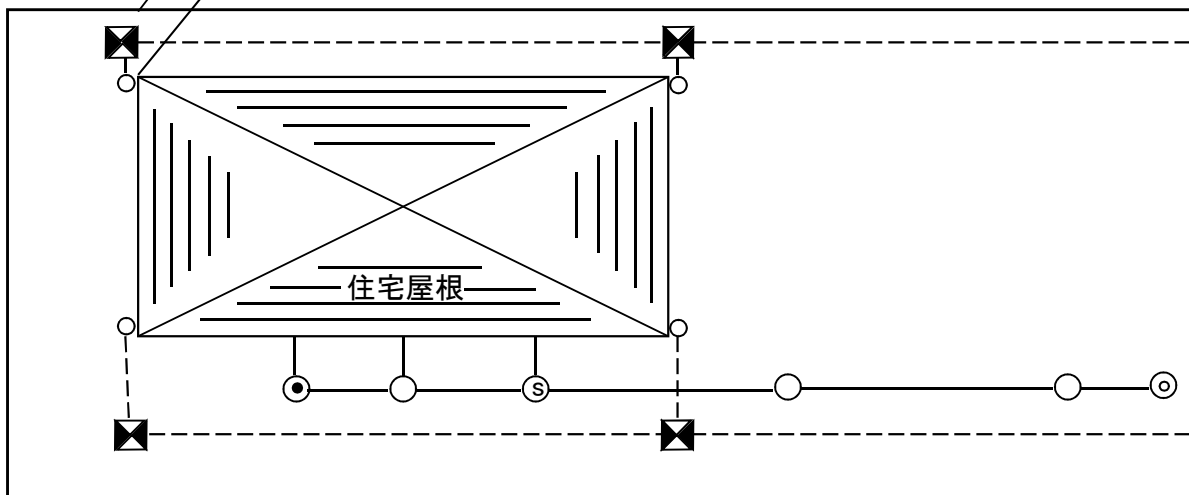
- | | |
|-----------|----------|
| ◎ 公共ます | Ⓢ 段差ます |
| ○ 汚水ます | ● ためマス |
| ----- 雨水管 | ———— 污水管 |
| ○ 雨とい | ⊠ 雨水浸透ます |

(2) 浸透ます設置例 (家屋と隣地境界距離 $\geq 1\text{m}$ の場合)

(合流式) \updownarrow 1m以上 ($\phi 150$ のとき1.0m、 $\phi 200$ のとき1.1m、 $\phi 300$ のとき1.2m、 $\phi 350$ のとき1.3m)



(分流式) \updownarrow 1m以上



◎ 公共ます

Ⓢ 段差ます

○ 汚水ます

● ためマス

----- 雨水管

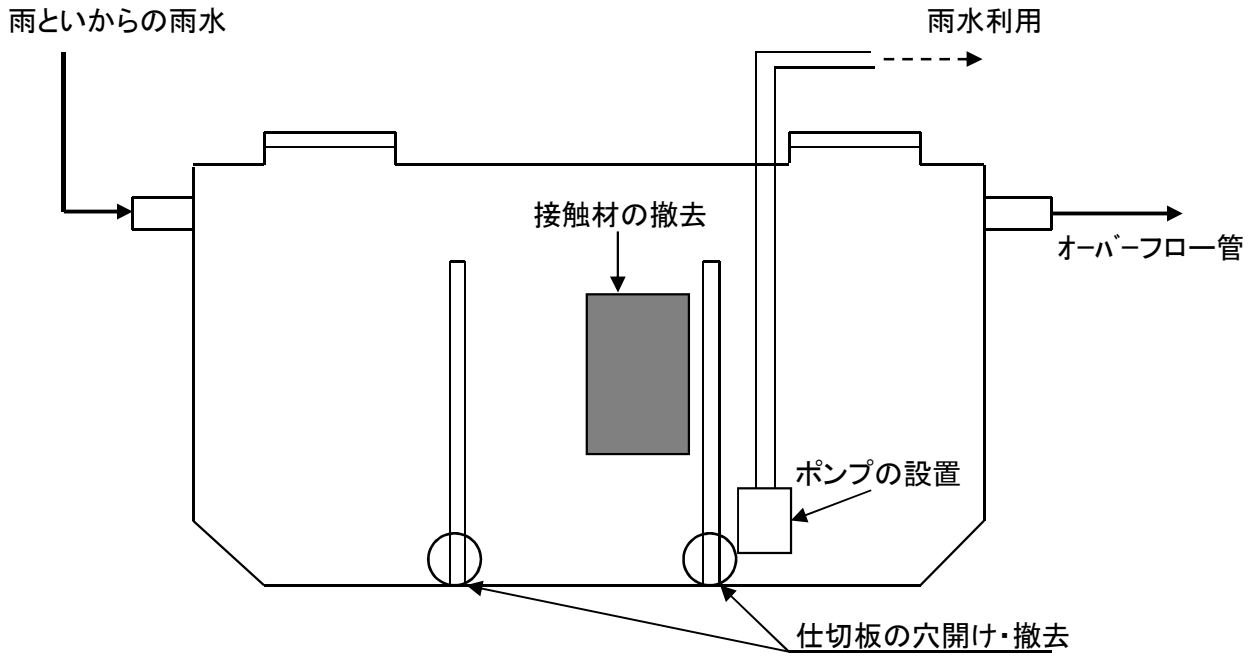
———— 污水管

○ 雨とい

⊠ 雨水浸透ます

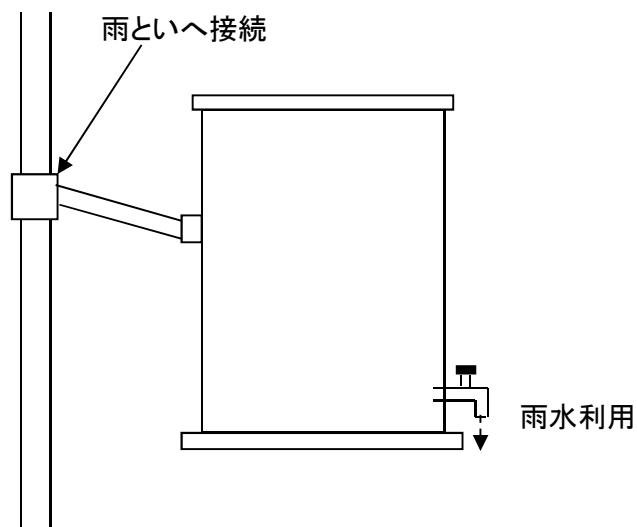
雨水貯留施設標準構造図

(浄化槽転用型雨水貯留施設)



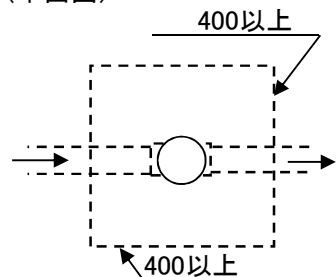
※水中ポンプ口径32mm以上 井戸ポンプ

(雨水貯留施設)

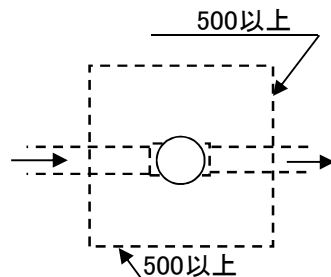


雨水浸透施設標準構造図 単位 mm

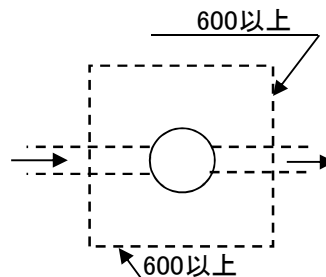
ます口径φ150
(平面図)



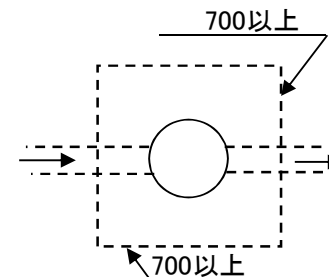
ます口径φ200



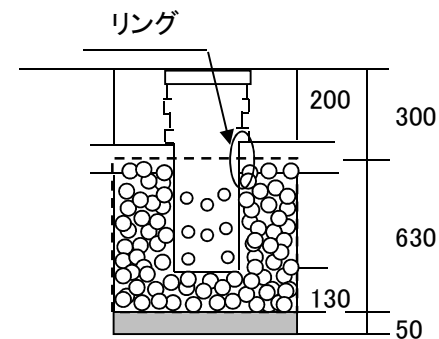
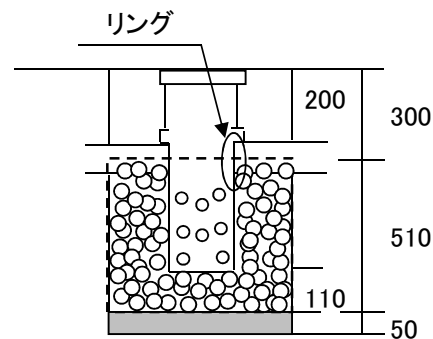
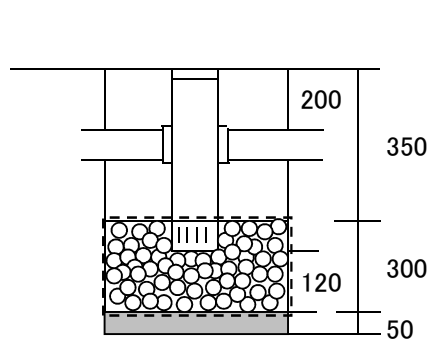
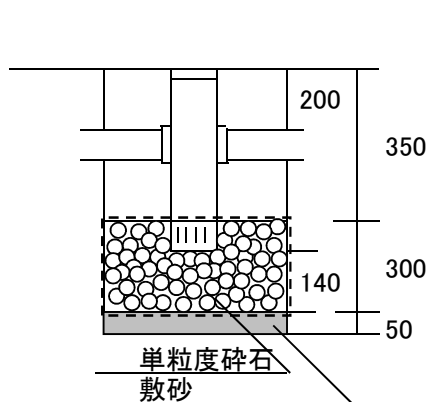
ます口径φ300



ます口径φ350



(側面図)



- 備考
- 1 この標準構造図は排水設備の基準(ます規格、接続管、土被り等)に沿い、現在市販され入手容易な既製品(合成樹脂製)をもとに作図したものであるが、コンクリート製品も補助対象になり得るものである。又、同等の浸透能力を有する浸透ますも補助対象とする。
 - 2 浸透施設のより大きな効果を得るために、この標準構造図に示す数値以上を確保することが望ましい。
 - 3 土被りの関係から、ます深さが変化する場合においても、ますの底から下側の碎石の厚さは100mm以上を確保すること。
 - 4 ますの周囲の単粒度碎石は4号20~30mmまたは5号13~20mmとし、厚さは100mm以上を確保すること。
 - 5 浸透効果を確保するため地山の掘削面は出来るだけ荒らさないように施工すること。

3. 雨水浸透柵の口径について

雨水浸透柵の望ましい口径を以下のとおりとします。
 ただし、離隔等の設置条件を満たす必要があります。
 望ましい口径以下であっても助成対象となります。

(1) 浸透土質が中砂（扇状地砂）の場合

代表的な地区は、八日市～寺町～小立野

- ・下表のとおり、屋根面積に対応した口径とする。

	浸透柵の口径 (mm)			
浸透ます 1 基当たり	φ150	φ200	φ300	φ350
屋根面積 (m ²)	0～30	～40	～60	～80

(2) 浸透土質が細砂（砂丘地）の場合

代表的な地区は、栗崎～金石～下安原

- ・土質的に多くの浸透量を見込めないため最低口径はφ200とする。
- ・離隔等の設置条件を満たす場合は、できるだけ大きな口径が望ましい。

(参考)

浸透柵の口径別の単位浸透量 (m³/hr・個)

土質			浸透柵の口径 (mm)			
砂質	地形	代表的な地区	φ150	φ200	φ300	φ350
細砂	砂丘地	栗崎～金石～下安原	0.25	0.37	0.56	0.77
中砂	扇状地砂	八日市～寺町～小立野	1.42	2.08	3.17	4.36

4. 施工方法及び手順

- ① 掘削は、浸透に必要な大きさとし、余掘りは行わない。
 - ア シャベル等で掘削する場合、地山斜面を剥ぐように掘り、浸透面が平滑にならないように仕上げる。
 - イ 浸透面は締め固めない。
 - ウ 機械掘削の場合も、側面、底面はスコップ等を用いて人力で整形する。
- ② 掘削後、直ちに敷砂工を行う。ただし、浸透対象地盤が砂レキの場合には敷砂は行わない。
 - ア 床付け面は踏み固めない。そのため、掘削完了後、ただちに遮断層用の砂を敷く。
 - イ 敷き砂は足で軽く締め固める程度とし、タンパ等の機械での転圧を行わない。
- ③ 透水性シートを浸透面（掘削面）全体に敷く。
- ④ 底部に単粒度砕石（4号20～30mm）または（5号13～20mm）を入れる。
- ⑤ 浸透ます等を据え付ける。
- ⑥ 周囲に単粒度砕石を入れる。
 - ア 単粒度砕石の転圧は、沈下や陥没防止のためある程度やむを得ないが、砕石部分の透水能力や貯留量に影響するため、転圧の回数や方法に十分配慮する。
- ⑦ 透水シートで単粒度砕石の上面を覆う。
 - ア 浸透ますの目詰まりを防止するため、周囲の土が単粒度砕石上に落ちないように透水シートを設置する。
- ⑧ 埋め戻しする。
 - ア 埋め戻し土の転圧は、タンパ等で十分締め固める。なお、単粒度砕石のかみ合わせ等による初期沈下起きる恐れがあるため、埋め戻し後1～2日は注意する必要がある。
 - イ 掘削及び埋め戻し時に、土砂、埋め戻し土などが浸透ますの単粒度砕石部に入らないように十分注意して施工する。
- ⑨ 必要に応じて、浸透ますに目詰まり防止対策を講ずる。
- ⑩ 残土処分をする。
- ⑪ 清掃、片付けを行う。
 - ア 施工中、浸透施設内に土砂が流入しないように、仮蓋をしておくなど配慮する。
 - イ 浸透ますの近くで一般工事を行う場合はシートを敷くなどして、残土や廃液等が浸透ますに入り込まないように注意する。
 - ウ 施工完了後、浸透ますの清掃を行う。
- ⑫ ノン砕石雨水浸透ます等の製品についてはメーカーが指定する施工方法に従う。